

一般講演 II

座長：松本 成史（旭川医科大学）

⑥ 前立腺癌患者に対する重粒子線治療後の尿路の晚期有害事象に対する漢方薬の使用経験

熊本セントラル病院泌尿器科¹⁾ 中川ごうクリニック²⁾

九州国際重粒子線がん治療センター³⁾

久留米大学医療センター 先進漢方治療センター⁴⁾

黒川 慎一郎¹⁾⁴⁾、薬師寺 和昭⁴⁾、坂田 雅弘⁴⁾

沈 龍佑⁴⁾、亀尾 順子⁴⁾、駒井 幹⁴⁾、清川 千枝⁴⁾、

八木 実⁴⁾、田中 英裕¹⁾、中川 剛²⁾、末藤 大明³⁾

恵紙 英昭⁴⁾

【緒言】

前立腺癌における重粒子線治療の利点として、通常の放射線治療で用いられる強度変調放射線治療(IMRT)と比較して直腸、膀胱への放射線量が少なく、治療期間が短いことがあげられる。しかしながら、Grade1以上の晚期有害事象は、約14%認めており、一時的に排尿障害、尿道炎、膀胱炎が増悪したとの報告がある。

今回、前立腺癌患者に対する重粒子線治療後の尿路の晚期有害事象に対する

漢方薬の投与により症状改善認めた1例を報告する。

【症例】

59歳男性。前立腺癌に対して重粒子線治療を施行した。

放射線治療後より排尿時違和感を主訴に当科受診し、癌の再燃示唆する所見は認めず

重粒子線治療後の尿路の晚期有害事象と考え、近医泌尿器科より内服加療で経過観察していた。しかしながら排尿時違和感、会陰部不快感改善認めず、炎症に伴う排尿障害の病態と同様に考えとして清熱剤として竜胆瀉肝湯を使用した。

竜胆瀉肝湯は、出典は、薛氏十六種に収載されている方剤である。既報では、前立腺癌患者の重粒子線治療後の尿路の晚期有害事象に対する竜胆瀉肝湯の使用経験報告例はなく、今回竜胆瀉肝湯により、排尿時違和感、会陰部不快感の改善を認めた。

竜胆瀉肝湯は、重粒子線治療後の尿路の晚期有害事象に対する薬物治療として、安全で有効な選択肢となり得る。